

5. 東海（地域別調査機関：三菱UFJリサーチ&コンサルティング（株））

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	一般小売店〔結納品〕 （経営者）	・ 今後は新規の来客数が増加する見込みである。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・ 東日本大震災以降、客は消費を我慢していたが、このところは動きが出てきており、明るい兆しが見えつつある。
		一般小売店〔土産〕 （経営者）	・ 東日本大震災の影響や高速道路料金引下げの終了に伴う影響は収束に向かっており、今後はやや良くなる。
		一般小売店〔酒類〕 （経営者）	・ 週末の飲食店への来客数が増加していることもあり、新規オープンする店から当店への問い合わせが出てきている。
		百貨店（販売担当）	・ ここ数年の買い控えの反動というよりは、必要な物は購入するという意欲が明確になってきていることから、今後は良い物、新しい物の売行きが良くなる。
		百貨店（販売担当）	・ ボーナスで購入する目的での下見が、今年は例年よりも多くなっているため、ボーナス時期の景気はやや良くなる。
		スーパー（経営者）	・ 近隣の神社への年末のお礼参り、正月の参拝客数の増加が見込まれるため、今後はやや良くなる。
		スーパー（総務担当）	・ ポジョレーヌスーパーの予約数が、前年に比べて増加している。
		乗用車販売店（従業員）	・ エコカー減税の終了に向けて駆け込み受注が見込まれ、販売台数は増加する。登録が間に合わなくなる車も出てくるため、先取り受注が見込まれる。
		乗用車販売店（経理担当）	・ エコカー減税の終了が近づくにつれて、駆け込み需要の増加が見込まれる。
	変わらない	商店街（代表者）	・ 個人客は来店するが、会社関係の来客数が以前と比べて減少しているため、今後も売上的には厳しい状態が続く。
		一般小売店〔書店〕 （経営者）	・ 客の様子を見ていても、動きははっきりしない。売上が良い日、悪い日のばらつきが大きく、今後もこのような状態が続く。
		一般小売店〔生花〕 （経営者）	・ 客の様子を見ていても、財布のひもは固い。当面は良くなる見込みはない。
		一般小売店〔贈答品〕 （経営者）	・ 製造業が多い当地域では、これまで投資に回復傾向が見られたが、急激な円高やタイの洪水の影響により、現在は足踏み状態である。従業員の所得も増えるとは思われず、2、3か月先も変わらない。
		一般小売店〔惣菜〕 （店長）	・ 東日本大震災以降、名古屋の景気はある程度持ち直してきたが、冬のボーナスが前年比で増えるとは思われず、当面は現状維持が続く。
		百貨店（売場主任）	・ 地元プロ野球チームの優勝セールで来客数は増加しているが、優勝セールの対象外になっている売場では、セール時期まで買い控えが見られる。
		百貨店（売場主任）	・ 低価格かつ買得感がない限り購入しないという傾向は、今後も続く。
		百貨店（企画担当）	・ 地元プロ野球チームの優勝セールといった好材料はあるものの、不安要素のほうが多い。一部の百貨店では高額商品の売上が伸びているとの報道もあるが、実際にはそのような傾向は見られず、今後数か月間で良くなることはない。
		百貨店（経理担当）	・ 今月の来客数は大幅に増えているが、この状況は続きそうにない。また、円高等が、お歳暮商戦にも影響する。
百貨店（販売担当）		・ クリスマスギフトの需要や年始のセールへの反応は、年々小さくなってきている。先行セールを開始する時期でも、売上に大きな変化が出ることはない。	
百貨店（店長）	・ 中元商戦が不振であったため、経験で判断すると、お歳暮商戦もあまり良くない。		
百貨店（販売担当）	・ コートの動きが鈍いため、今後も厳しい。		
百貨店（営業企画担当）	・ 円高が継続すると、当地域の企業は収益が圧迫される。冬のボーナス商戦時期の消費意欲も、低下することが懸念される。		
スーパー（経営者）	・ 大型、中型のスーパーは、コンビニのようにチェーン組織化しており、小型スーパーは消えつつある。今後も厳しい状態が続く。		
スーパー（店長）	・ 消費者は現在の生活水準の維持を重視しており、最小限の支出以上の消費は今後も見込めない。		
スーパー（店長）	・ B級グルメブーム等の押し上げ材料はあるものの、購買行動は相変わらず慎重であり、節約、買い控えは今後も続く。また、牛肉の買い控えも続く。		
スーパー（店員）	・ 客は安売りスーパーに流れており、今後も変わらない。		

スーパー（営業担当）	・ボジョレーヌーヴォーの予約状況は、芳しくない。年末年始の需要も、前年同月と比べて大きく増えることはない。	
スーパー（販売促進担当）	・前々年から競合店の出店が相次ぎ、店舗数が過剰になっており、消耗戦の状態が今後も続く。設備の改善や社員教育を実施するなど、対応を図っているところである。	
コンビニ（企画担当）	・タイの洪水や円高などの影響は懸念されるものの、資産を所有している60歳以上の年代層への影響は小さく、子どもや孫に援助するなど、消費は全体として底堅い。このような状態が今後も続く。	
コンビニ（エリア担当）	・前年度のたばこ増税に伴う影響は、今後収まってくる。全体の購買意欲が変化する兆しは、特に見られない。	
コンビニ（店長）	・この数か月間、消費者は無駄遣いをせず、最低限しか買わない傾向にある。今後もこの傾向は続く。	
コンビニ（商品開発担当）	・前年と比べると自動車関係の仕事が多くなっている分、期間労働者などの労働人口が増えており、今後も今の傾向が続く。	
衣料品専門店（経営者）	・バーゲン時期に入り来客数が増加しても、妥協して購入する客が減少しているため、苦戦する。	
家電量販店（店員）	・来年1月ごろには少しは良くなるが、タイの家電メーカーの操業停止が長引く場合は、影響が出てくる。現在でも、タイに生産拠点を持つ家電メーカーの商品の入荷には遅れが出ている。	
乗用車販売店（従業員）	・今後発表される新型車の情報を気にする客が多く、車への関心は高まってきている。しかし、関心が購入に結び付くかどうかは、まだわからない。	
乗用車販売店（従業員）	・タイの洪水により、車はもちろんカーナビ等の生産も止まっている。次第に影響が出始めているため、対応を誤ると、計画目標を大きく下回る懸念もある。	
乗用車販売店（総務担当）	・東日本大震災の復興需要が、いつまで続くかわからない。	
住関連専門店（営業担当）	・個人消費の低迷により、飲食店や物販店の開業数は横ばいである。ただし、持家住宅や分譲マンションはやや上向いており、公共工事も減少傾向が止まり、やや上向いている。全体的に見ると、多少の変動はあるものの、横ばいが続く。	
一般レストラン（従業員）	・年末は忘年会などで活気付く時期であるが、最近では会社単位の忘年会はなくなり、4、5人のグループ単位での忘年会がある程度であり、売上は増加しない。	
スナック（経営者）	・忘年会や新年会等で繁華街の人出は増えるが、客によると、景気の悪化のため企業は忘新年会どころではないとの話である。	
観光型ホテル（経営者）	・回復傾向にはあるものの、更に拡大するかどうかは不透明である。ただし、前年並みの売上は見込めている。	
観光型ホテル（販売担当）	・忘新年会の受注件数は、受付当初は良かったが、最近では前年同時期と比べて悪くなっている。今後のディナーショーやおせちの販売にも不安がある。	
都市型ホテル（従業員）	・予約件数の傾向は、現在と変わらない。	
都市型ホテル（営業担当）	・年明けの予約件数は、現在と比べて大きく変わっていない。当面変わる様子もない。	
旅行代理店（従業員）	・旅行シーズンは過ぎるが、忘新年会や日帰り旅行を中心に予約は順調であり、今後も変わらない。	
タクシー運転手	・例年ならば人の動きが活発になる時期であるが、今年は減少してきている。円高の影響のためか、自動車関連製造業で働く人の繁華街への外出が、控えられている様子である。景気が上向く気配は全く感じられない。	
通信会社（企画担当）	・県内の同業他社の動向を見ると、今後競争はますます激化する。好転の兆しは全く感じられない。	
テーマパーク（職員）	・冬季のシーズンに向けて営業活動を行っているが、反応は今一つである。	
ゴルフ場（企画担当）	・12、1月の予約件数は、ほぼ前年並みである。今後も横ばいが続く。	
その他サービス〔介護サービス〕（職員）	・単価は低水準で推移しており、薄利多売の状態は今後も続く。	
その他住宅投資の動向を把握できる者〔室内装飾業〕（経営者）	・設備投資に対する企業からの引き合いは少なく、住宅関係の受注もあまり多くない。今後も、現在の水準で推移する。	
やや悪くなる	商店街（代表者）	・近隣では大規模な商業施設や日用品等を扱う新規店の開業が相次いでおり、人の流れに偏りが出ている。今後もこの傾向は続き、競争力が弱い店舗の衰退に拍車が掛かりそうである。

	一般小売店〔自然食品〕（経営者）	・節電も含めて、消費を抑える生活スタイルが定着している。今後はこの傾向がより顕著になってくる。
	百貨店（経営企画担当）	・現状では消費意欲の低下は見られないが、円高が長期化しているため、今後は企業収益の悪化やそれに伴う雇用環境の悪化によって、消費意欲の低下が懸念される。
	スーパー（店長）	・競合店の改装をきっかけに、価格競争が激化している。来客数の維持のため、当店でも対応せざるを得ない状況にある。このため、利益が圧迫される。
	コンビニ（店長）	・消費はなかなか回復しない。余分な物を買わない傾向は、今後も続く。年末商戦でも、自動車関連の客が多いため、円高やタイの洪水の影響が懸念される。
	コンビニ（エリア担当）	・良くなる要素は見当たらない一方で、競合店の出店や円高の進行など悪くなる要素がいくつかある。
	衣料品専門店（販売企画担当）	・寒くなってきているため冬物が動き始めるが、比較的安い商品が中心であるため、売上は少ない。また、節電グッズの購入などに支出されているため、今後は伸び悩む。
	家電量販店（店員）	・地上放送のデジタル化に伴う駆け込み需要の反動減は、予想以上である。今後もこの影響は続く。
	家電量販店（店員）	・円高、東日本大震災、タイの洪水、欧州の信用不安など、海外も含めて良くない要素が多く、消費意欲は低くなっている。この傾向は今後も続く。
	乗用車販売店（従業員）	・タイの洪水の影響が、今後は各メーカーに波及し、景気は落ち込む。
	乗用車販売店（従業員）	・円高とタイの洪水の影響で、今後の経済活動は停滞する。
	高級レストラン（スタッフ）	・円高によって企業収益が悪化したり、タイの洪水の影響によって国内企業の間には生産調整が広がったりすると、来客数に影響が出てくる。
	スナック（経営者）	・年金生活の客が多く、年金問題の方向性によっては、影響を受けて今後は厳しくなる。
	都市型ホテル（経営者）	・来客数、客単価共に、不安要素が多い。
	都市型ホテル（支配人）	・冬は閑散期であるため、例年ならば単価を下げて外国人客で宿泊を埋める。しかし今年は、福島第一原子力発電所事故の影響に伴う外国人客の落ち込みが、まだ本格的には回復していない。また、輸出企業の客が多いため、円高の影響で価格交渉が厳しくなっている。
	旅行代理店（経営者）	・本来ならば円高は海外旅行にはプラス要因であるが、行き過ぎた円高は客の所得に影響する可能性があるため、今後はやや悪くなる。
	旅行代理店（従業員）	・増税によって旅行への支出が減らされるため、サービス業は厳しくなる。
	テーマパーク（職員）	・天候が不安定であり、地震発生に対する不安もあるため、客は外出を控えている様子である。この傾向は今後も続く。
	テーマパーク（経営企画担当）	・予約件数は前年並みであるものの、個人の消費は冷え込む兆しがある。
	設計事務所（経営者）	・新築設計の件数が落ち込んでから、長い月日が経っている。そのため、耐震改修やリフォーム、住宅性能評価等の仕事に移行する以外にないが、こうした案件も多くない。
	住宅販売会社（従業員）	・円高やタイの洪水の影響が、当地域の主力産業である製造業を直撃する。東日本大震災から回復してきたところに、追い打ちをかけられる。住宅エコポイントなどのプラス要素もあるが、買い控えはそれ以上に進む。
	その他住宅〔住宅管理〕（従業員）	・広告、チラシを入れても、問い合わせの電話はほとんどない。このペースでいくと、2、3か月先の契約はほとんどない。
悪くなる	商店街（代表者）	・地上放送のデジタル化に伴う需要がほぼなくなり、テレビの売上は大幅に減少している。テレビの販売割合は大きいだけに、影響は大きい。省エネ商品、太陽光発電といった商品は簡単には売れないため、地域の専門電気店の経営は今後も厳しい。
	その他専門店〔貴金属〕（店長）	・節約が続いているなか、円高や株安の報道もあり、来店客からは先行きを不安視する話題が出ている。これは客の消費意欲の低下につながっており、売上も増えてこない。
	一般レストラン（経営者）	・周囲では廃業する同業者が続出しており、良くなる兆しは全く感じられない。
	理美容室（経営者）	・客の話によると、仕事はあっても、儲けは出ていない様子である。今後は更に悪くなる。
	住宅販売会社（経営者）	・金融機関の融資条件は、依然として厳しい。買い控えもあり、厳しい状況が今後も続く。

		住宅販売会社（従業員）	・一般住宅の案件でも、入札に掛けたり、インターネットの情報を使って価格交渉したりするなど、値引きを求める傾向が顕著になってきている。それでも引き受ける企業と廃業する企業に分かれてきており、非常に厳しい状態が今後も続く。
企業 動向 関連	良くなる	—	—
	やや良くなる	出版・印刷・同関連産業（経営者） その他サービス業〔ソフト開発〕（社員）	・近隣の大企業の工場の景況が良く、その影響で飲食店の売上も増えてきている。今後はやや良くなる。 ・今後の仕事も増加する見込みであるため、要員の拡大は今後も続ける。
	変わらない	窯業・土石製品製造業（経営者）	・タイル、食器等の販売動向は住宅着工件数に影響されるが、住宅建設の動きを見ると、今後も横ばいが続く。ただし、東北地方の復興が軌道に乗ると、特需が生まれる可能性もある。
		金属製品製造業（経営者）	・引き合いは依然として低調であるため、今後も厳しい状態が続く。
		一般機械器具製造業（営業担当）	・北米、アジア市場共に、設備投資意欲がおう盛な客と全くない客に二分化されている。設備投資が盛んな客の要求に応じない限り受注できないが、現状では円高が足かせとなっている。この状態は今後も続く。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・タイの洪水による影響は一時的であると思われるが、円高の影響は収まる目処が立っていない。
		輸送用機械器具製造業（品質管理担当）	・取引先の生産計画を見ると、当面は低い水準での横ばいが続く。
		建設業（営業担当）	・年末に向けての調整により、清掃の仕事などは出てくるかもしれない。しかし、全体の仕事量が減少する傾向は、今後も変わらない。
		輸送業（経営者）	・荷主からの値下げ要請は、今後も続く。また、軽油価格の高止まりや消費意欲の落ち込みも、引き続き厳しい。
		金融業（従業員）	・客の話によると、自動車関連企業は全体としては良くなってきている。しかし、今後も好調が続くかどうかは、わからないとのことである。
		金融業（企画担当）	・円高や欧州の信用不安が落ち着かない限り、企業は動きにくい。当面、現在の景気が続く。
		不動産業（開発担当）	・工事費が上昇傾向にあるため、今後それが販売価格の上昇につながると、販売が低迷する可能性もある。
		広告代理店（制作担当）	・年末商戦に向けての広告受注量は、前年以上は見込めない。ただし、エコ関連の広告は、多少増えそうである。
		新聞販売店〔広告〕（店主）	・新聞購読者数の減少が懸念されるため、チラシ量の増加に期待したいところであるが、先行きは不透明である。
		やや悪くなる	紙加工品〔段ボール〕製造業（経営者）
	印刷業（営業担当）		・良くなる兆しは見えていない。東日本大震災の影響に伴う材料価格の高騰によって、状況は悪化する見込みである。
	窯業・土石製品製造業（社員）		・タイの洪水に伴う自動車の減産の影響により、取引先の工場では稼働率が更に低下する可能性が高い。
	電気機械器具製造業（経営者）		・取引先の業界では、来年1、2月の設備投資が増加する見込みはない。
	電気機械器具製造業（経営者）		・半年以上前には受注できていた工作機械関連にも、陰りが見えてきている。数か月前から続く円高の影響によって、最近では受注が取れていない。発注量の激減により、今後は悪くなる。
	輸送用機械器具製造業（総務経理担当）		・円高の影響とタイの洪水の影響で、完成車メーカーによる生産台数は減少してくる。
	輸送用機械器具製造業（財務担当）		・タイの洪水の影響によって、取引先では減産が避けられない。
	輸送業（エリア担当）		・タイの洪水の影響により、輸出品の出荷調整が始まっている様子である。この影響で、今後はやや悪くなる。
	金融業（法人営業担当）		・現在は、東日本大震災の影響に伴う大幅減産を取り戻すべく、自動車部品メーカーを中心に増産が続いている。しかし、円高の定着によって、忙しくても利益は出ていない様子である。また、欧州の信用不安や米国、中国の景気減速に対する不安もあり、今後はやや悪くなる。
	不動産業（管理担当）		・欧州の信用不安の行方次第では、生産や消費が影響を受け、ひいては賃貸アパート需要等にも影響が出てくる。
	広告代理店（経営者）	・当地域の企業では、広告予算に対して慎重になってきている。今後はやや厳しくなる。	

	悪くなる	鉄鋼業（経営者）	・景気が良くなる要素は見当たらない。来年の案件の見積依頼や発注も全くない。
		輸送業（従業員）	・円高によって、輸出企業では業績が悪化する。また、原油価格の高止まりにより、製品価格に転嫁できない産業や企業では、業績に影響が出てくる。
雇用 関連	良くなる	—	—
	やや良くなる	人材派遣会社（経営企画）	・来期以降の開発需要が徐々に明らかになっているが、これを見ると、当面は技術者派遣需要の増加が見込まれる。
		人材派遣会社（営業担当）	・年内は、復興需要による一時的な回復が見込める。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・新聞の求人広告量を見ると、全体としては良くなっている。ただし、タイの洪水など、地元の自動車製造業等が影響を受ける材料が次から次へと出て来ており、動きは弱い。
		職業安定所（職員）	・建設業の求人数が、前年同月と比べて連続して増加している。全体的にも、新規求人数は増加傾向、新規求職者数は減少傾向と、良い傾向が続いている。この傾向は今後も続く。
		職業安定所（職員）	・年末から年明けにかけて円高等の影響が出てくる可能性はあるが、下請企業が多い当地域ではすぐには波及してこない。現在の求人意欲の高さは、当面続く。
		職業安定所（次長）	・円高による先行き不安もあるが、改善の方向性が大きく変わるとは考えられない。
		民間職業紹介機関（営業担当）	・裾野が広い自動車業界における生産回復が、今後も各産業に対して良い影響をもたらす。
変わらない	人材派遣会社（経営者）	・この1年数が月間、求人にはほとんど動きがない。あったとしても、ピンポイントの求人である。今後もこの状態が続く。	
	職業安定所（所長）	・自動車の生産回復によって、有効求人数の前年同月比は改善傾向になっている。ただし、円高の影響から先行き不安が出始めており、求人に関しても様子見する事業所が出てきている。	
	職業安定所（職員）	・輸送用機械器具製造業が堅調であるが、二輪車に関しては下向きであり、この傾向は今後も変わらない。	
	民間職業紹介機関（支社長）	・求人数は現状では微増傾向にあるものの、半導体業界の減速や、スマートフォンの勢いが一段落していること、欧州の信用不安、円高などの不安要素もあり、今後は横ばいとなる。	
	学校〔専門学校〕（就職担当）	・例年、新卒採用に大きな変化が見られない時期であるが、現時点のエントリー数、説明会への出席者数、内定者数を見ても、前年を上回ってはいない。	
やや悪くなる	人材派遣会社（社員）	・中高年の失業者が増えており、職業紹介への登録者数が増加している。これにより、今後の景気は悪くなる。	
	人材派遣会社（支店長）	・タイの洪水の影響により、当地域の景気は若干悪くなる。	
	人材派遣会社（支店長）	・労働者派遣法の改正や行政指導による影響は継続しており、県内企業では派遣から契約社員などの直接雇用への切替が多くなっている。このため、今後は売上が減少する。	
	求人情報誌製作会社（企画担当）	・現在の求人数をけん引している製造関連業界では、雇用を見直す動きがある。	
	職業安定所（職員）	・円高による影響が、輸出関連企業を中心に顕在化してきている。生産台数が回復し休日出勤でカバーしていた自動車関連でも、円高に加えてタイの洪水による影響も出始めており、先行きは不透明である。	
	悪くなる	—	—